

# Professional

発行富山県高岡農林振興センター 高岡市赤祖父211 高岡総合庁舎2階 TEL(0766)26-8474 FAX(0766)26-8475  
ホームページは高岡農林振興センターで検索！！



富富富



チューリップのネット栽培機械（植込機）



スマート農業普及・推進研修会

## 目次

■とやま農業経営総合サポートセンターの活用について	P1	■ ICTを活用した捕獲によるイノシシ被害防止とCSF（豚コレラ）対策	P6
■令和2年産米の品質向上対策について	P2~3	■新規就農者の紹介 ～第16回～	P7
■スマート農業普及・推進研修会を開催しました	P4	家敷 真浩さん（氷見市）	P7
■たまねぎの広域産地化にむけた取組みについて	P4	■がんばる女性農業者 ～第9回～	P7
■りんごの自家苗木生産について	P5	（農）下後亟営農組合野菜加工部（小矢部市）	P7
■ネット栽培でチューリップ球根の省力化を目指す	P5	■HTSが意見発表で全国大会へ！	P8
■「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」導入支援の取組みについて	P6	■農業関係表彰管内受賞者のご紹介	P8

## とやま農業経営総合サポートセンターの活用について

平成30年度から農業経営者総合サポート事業（国事業）を活用し、農業経営者のさまざまな経営課題の相談対応や、税理士や中小企業診断士等の専門家の派遣などを行う「とやま農業経営総合サポートセンター」を富山県担い手育成総合支援協議会に開設しています（図）。

これは、経営意欲のある農業者が創意工夫を生かした農業経営を展開できるよう、発展段階に応じた経営課題に対応していくため、関係機関が連携し、支援チームを編成して、専門家の派遣などを通じて、更なる経営の発展を支援しています。

今後、①事業拡大をしたい、②経営改善をするためにアドバイスを受けたい、③法人化を目指したい、④経営継承をしたい場合など、農業者の皆さんの経営課題を解決し、更なる発展を支援していきます。

相談窓口は、「とやま農業経営総合サポートセンター」（富山県担い手育成総合支援協議会内（一社）富山県農業会議）または「サテライト相談窓口」である高岡農林振興センター経営支援班、各市担い手育成総合支援協議会ですので、ご相談ください。

（担い手支援課 経営支援班）

農業者の皆さまへ

### とやま農業経営総合サポートセンター

をぜひ活用ください！

「とやま農業経営総合サポートセンター」では、意欲ある農業者の皆さまの更なる経営発展を応援するため、様々な経営課題の発見・整理と解決に向けた支援をさせていただきます。

- 1. 支援対象**  
経営発展を目指す意欲ある担い手  
（認定農業者、認定新規就農者、兼業農業者、人・農地プランの中心経営体等）
- 2. 支援内容**  
法人化、経営改善のアドバイス、複合・多角化、従業員雇用、労働環境の改善、経営継承など、多様な経営課題を対象に、支援チームを構成し専門家派遣等の支援を行います。
- 3. 支援の流れ** 相談はすべて無料です！

**STEP 1**  
経営課題の相談

まずは、「とやま農業経営総合サポートセンター」または「地域担い手育成総合支援協議会（サテライト窓口）」までご相談ください。

**STEP 2**  
計画書の作成

「地域担い手育成総合支援協議会」は、農業者の皆さまと個別面談等を行いながら、「支援チーム活動計画書」を作成します。

**STEP 3**  
支援活動の実施

支援チームは計画書に基づき、専門家派遣等を活用しながら、農業者の皆さまの経営課題の解決に向けた支援活動を実施します。

とやま農業経営総合サポートセンターによる支援

関係機関や専門家等と連携する経営戦略会議を開催し、支援内容を検討のうえ、決定します。  
サポートセンターで登録中の専門家  
税理士、社会保険労務士、中小企業診断士、司法書士、不動産鑑定士、デザイナー、労働安全コンサルタントなど

とやま農業経営総合サポートセンター  
富山県担い手育成総合支援協議会内（一社）富山県農業会議 TEL：076（441）8961

図 とやま農業経営総合サポートセンターのチラシ

# 令和2年産米の品質向上対策について

～基本技術の徹底が大事～

富山県の令和元年産米の作柄は作況指数 102(12月10日現在)と北陸地域でも最も高く、単収は 540kg/10a となりました。高岡管内においても地域差はありますが、概ね平年並み以上の収量が確保されています。

一方、品質は、うるち玄米1等比率 84.5% (10月31日現在)と、目標とする 90%に届きませんでした。高岡管内においても地域差(コシヒカリ:72.6%~96.1%、富富富:52.7%~99.6%)はありますが、「コシヒカリ」では白未熟粒(乳・心白粒、基・背白粒)の発生が多く、品質の低下がみられました。また「富富富」では高温登熟の影響で発生する基・背白粒が少なく、高温に強い品種特性が発揮されましたが、一部で過剰着粒からの養分競合の影響により発生する乳・心白粒の発生がみられました。

このことから、令和元年産米の課題を解決するためにも以下の重点技術対策を実践し、令和2年産も引き続き“高品質な米づくり”に取り組みましょう。

## 1 今年の品質低下の要因

### (1) 基白・背白粒の発生

#### 【登熟期間の高温】

管内のコシヒカリの平均出穂期は7月31日となり、出穂後20日間の日平均気温は28.4℃と高くなりました(表1)。

この出穂後20日間の平均気温が高温になるほど白未熟粒(基・背白粒)の発現が高くなりました(図1)。

表1 コシヒカリの出穂期と出穂後日平均気温(℃)

年次	R1	H30	H29	
出穂期	7/31	7/29	8/1	
出穂後の期間	1-5日	28.5	28.4	27.5
	6-10日	28.9	26.1	26.3
	11-15日	29.2	26.3	24.4
	16-20日	26.8	24.6	25.7
	1-20日間	28.4	26.3	26.0

※観測地点: 砺波

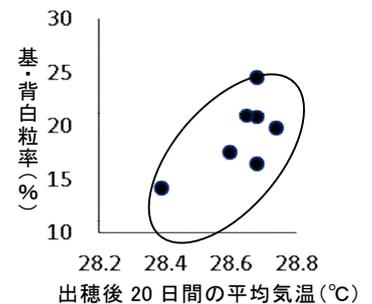


図1 コシヒカリの出穂後20日間の平均気温と基・背白粒の関係(R1)

#### 【稲体の活力低下】

今年はお穂7日前における葉色の淡いほ場が少なく、茎数が多かったため、控えめな追加穂肥の施用対応となりました。しかし、梅雨明け以降の高温多照により穂揃期の葉色が淡くなり、稲体の活力が低下したほ場では、基・背白粒の白未熟粒の発現を助長しました(図2)。

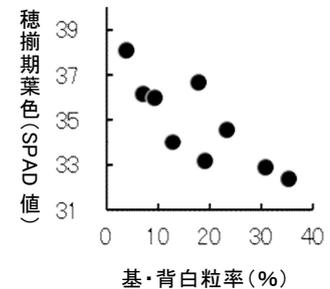


図2 コシヒカリの穂揃期葉色と基・背白粒の関係

### (2) 乳・心白粒の発生

#### 【㎡当り着粒数の増加】

梅雨入りが早く、その後の断続的な降雨も影響し、コシヒカリ・富富富ともに中干しの開始が遅くなったほ場や、中干し程度が不十分なほ場がみられました。

上記ほ場では、幼穂形成期頃の茎数は過剰で葉色も濃く、幼穂形成期での生育量(草丈×㎡茎数×葉色(板)÷1,000)が大きくなりました(図3、4)。

幼穂形成期頃の生育量が過剰となったほ場は、弱勢分けつが有効化し、㎡当り着粒数が過剰となりました。

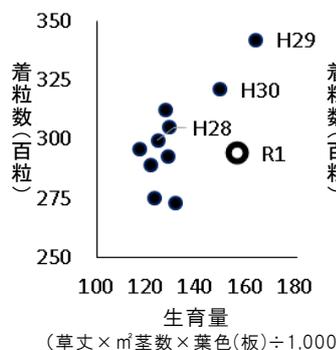


図3 コシヒカリの生育量と㎡当り着粒数との関係(H22-R1)

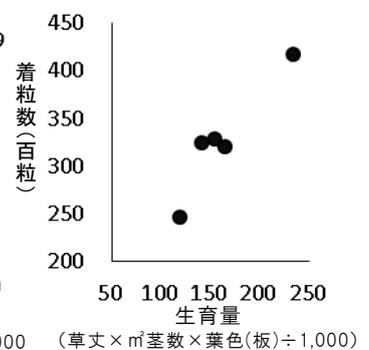


図4 富富富の生育量と㎡当り着粒数との関係(R1)

## 【8月下旬の低日射】

コシヒカリや富富富では、m<sup>2</sup>当り着粒数が多くなると乳・心白粒の白未熟粒の発現が多くなったことに合わせ(図5)、登熟後半に日照不足となったことから、乳白粒の発現も多くなりました(図6)。

これは、低日照などの登熟に不利な条件に起因して発生する白未熟粒であり、穂へのデンプンの供給が不足するためと考えられています。

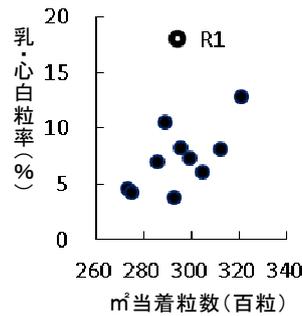


図5 コシヒカリのm<sup>2</sup>当り着粒数と乳白・心白粒の関係(H22-R1)

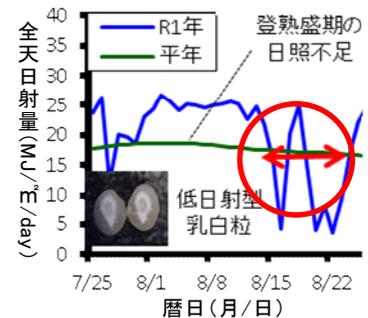


図6 登熟期間の日射量の推移(R1)

## 2 令和2年産米の重点技術対策

コシヒカリや富富富において、気象条件に左右されず安定的に収量、品質を確保するためには、健全な根の育成と適正な穂数を確保し、m<sup>2</sup>当り着粒数を多くしないことが重要となります。

### (1) 土づくりの実施

土づくり資材等の継続的な施用で稲体の珪酸濃度を高めることが有効です。また、土壌条件に応じた適正な施肥窒素量を厳守しましょう。

### (2) 適正な田植作業の実施と生育初期の水管理の徹底

田植は出穂後20日間の平均気温が27℃以下となる8月5日以降の出穂を目標に、5/15を中心とした田植えを実施するとともに、適正な田植作業で初期茎数を確保しましょう。

- ① 栽植株数は70株/3.3m<sup>2</sup>
- ② 植付深3cmの徹底、植付本数3~4本での確実な植付け
- ③ 生育初期の浅水管理の徹底
- ④ 田植同時除草剤の使用基準の遵守

### (3) 中干しの確実な実施と適切な水管理

田植え後1ヶ月までの中干しの開始や土壌条件に応じたその後の間断かん水の徹底により、幼穂形成期頃に適正な生育量へ誘導しましょう。特に、高温等の気象変動にも対応するために健全な根を育成することが重要となります。

- ① 6月上旬の溝掘りの実施
- ② 田植後1か月までの中干しの開始
- ③ 中干し後の間断かん水の実施

R2年は特に意識して取り組みましょう!!

◎ 中干し・間断かん水の適切なほ場

✕ 中干し・間断かん水の不十分なほ場



発根量が多く、健全根の割合が高い。

### (4) 状況に応じた肥培管理と登熟期間の水管理

高温条件での白未熟粒と胴割粒の発生低減には、登熟期間の稲体活力の維持が重要です。

- ① 必要に応じて、追肥の実施による穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導
- ② 出穂期後20日間の湛水管理の徹底
- ③ 出穂後20日以降から収穫の5~7日までの間断かん水による土壌水分の保持

(農業普及課)

## スマート農業普及・推進研修会を開催しました

管内の農業者や関係者約70名が令和元年11月6日（水）に高岡市農業センターにおいて、水位センサーを用いた水田入水管理などスマート農機を用いて省力化を進める南砺市小坂営農組合の取り組みと、AIを搭載した作業日誌・経営管理ソフトの活用法について学びました。

### 1 南砺市小坂営農組合におけるスマート農業機器を用いた経営の省力化

ケーブルテレビ通信を利用してテレビ画面で水田の水位を確認できるシステム（写真）等、多くの省力化の取り組みが紹介されました。集落ぐるみの営農活動を続けるため、出役人数を減らす無人機械の導入ではなく、水管理など組合員全員が取り組まなければならない作業の省力化に対してスマート農業技術の導入を進めているとのお話が印象的でした。



写真 スマート農機（水位センサー）実物を用いた水田水管理の省力化の説明

### 2 作業日誌・経営管理ソフトの活用方法の説明

作業日誌・経営管理ソフトの活用方法について、①農地管理や生産・作業履歴記録等の基本機能、②水位センサーなど各種センサーからのデータや過去の営農データ、さらには気象や農薬登録情報といった外部データをAIが分析することで栽培管理の高度化・最適化が可能となる分析機能、③田植機の作業順序など熟練者のノウハウを蓄積、形式知化することで従業員の能力アップが可能となる支援機能など、多様な機能が説明され、参加者は熱心に聴講されました。

なお、当センターでは今後もスマート農業に関する技術の紹介や実証を行い、持続可能な農業の推進に向けた取り組みを支援していきます。

（農業普及課 高岡班）

## たまねぎの広域産地化にむけた取り組みについて

### 1 たまねぎの広域産地化に向けた取り組み

県は、農協のエリアを越えて県全体で生産振興を図る野菜を、広域産地形成品目として位置づけ、全農とやまを中心として加工用キャベツ、にんじん、ばれいしょの機械化作業体系による大規模生産者の育成と広域産地化を推進してきました。となみ野農協のたまねぎの成功事例を県内に横展開させるため、令和元年産からたまねぎを広域産地形成品目に位置づけ、富山県たまねぎ出荷協議会が設立（令和元年8月）されるなど取り組みを強化しています。この結果、県内5農協、9経営体で新たに6.4ha栽培され271tが出荷（当センター管内2経営体1.1haが栽培）されました。

### 2 導入メリット

たまねぎは機械化一貫作業体系が確立しており、省力的な栽培が可能で10aあたりの労働時間は56時間、所得は101,000円です（表1）。全農とやまではたまねぎ生産にかかる初期投資を抑制するとともに面積拡大を図るため、は種作業の受託に加え育苗で使用する剪葉機や定植機、収穫機等の一連の機械を貸し出しています。さらに、収穫されたたまねぎを鉄製コンテナで全農の調製施設へ搬入すれば出荷調製後に加工業者へ出荷されます。

### 3 栽培のポイント

たまねぎは①良質苗の生産、②植付け前の排水対策、③雑草対策、④べと病などの適期防除もポイントとなります。ほ場の排水対策や病害対策を徹底し、単収を5t以上確保することが主穀作経営体の複合化品目として定着させる目標となります。

（担い手支援課 園芸振興班）

表1 たまねぎの経営指標

区分		金額（円）	
粗収入	売上高	250,000	
	補助金	8,000	
収入合計（A）		258,000	
経営費	材料費	種苗費	57,500
		肥料費	14,000
		農薬費	20,000
		資材費	5,000
	機械利用料金	23,000	
	調製料金	25,000	
出荷経費	販売手数料	12,500	
経営費合計（B）		157,000	
所得（A - B）		101,000	
時間あたり報酬		1,347	

# りんごの自家苗木生産について

## りんご黒星病DMI剤耐性菌対策

### 1 りんご苗木を自家生産する事となった背景

青森県では、平成28年からりんご黒星病の基幹防除薬剤（DMI剤）が効かない耐性菌（以下、本耐性菌）が確認され、大きな問題となっています。りんご黒星病はりんごの主要病害のひとつで、強い感染力により多発した場合は落葉と果実に病斑（写真1）を生じ品質や生産量の低下をもたらす病気です。本耐性菌は県外のりんご主産地で急速に拡大するとともに、本県でも平成30年に県外からの購入苗木での発病が確認され、苗木をすべて伐根廃棄処理しました。本耐性菌が県外からの苗木を介して県内に拡散すると、本県のりんご生産に極めて大きな悪影響を及ぼすことから、県外の苗木導入を控えるよう関係機関を含めてお願いしているところです。



写真1 果実での黒星病斑

### 2 りんご自家苗木生産の支援について

前述の対策として、県は本耐性菌に罹り病していない苗木を県内産地が自家生産することを支援することとし、令和2年3月から自家苗木生産ほ場の設置と技術習得のための研修会を右図のように進める予定です。ウイルスフリーのマルバ台木育成用穂木は本県の果樹研究センターで採取・増殖しますが、本数が少なく希望者全員に配布できるのは数年先の見込みです。本耐性菌の県内への侵入を防ぐため、りんごの自家苗木生産へのご理解とご協力をお願いいたします。

（担い手支援課 園芸振興班）

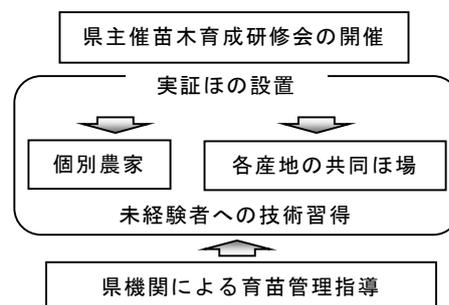


図 自家苗木生産研修体制

# ネット栽培でチューリップ球根の省力化を目指す

### 1 チューリップ球根生産の課題

チューリップの球根生産は作業が集中するため、多くの短期雇用労力を必要とする植込・収穫作業を省力化し、経営規模を拡大することで生産コストを大幅に削減することを目的とし、オランダで超省力化が実現しているネット栽培の導入に取り組んでいます。

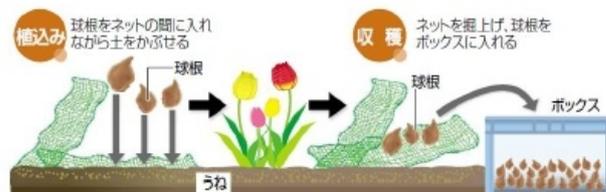


図 球根のネット栽培の模式図

球根のネット栽培とは、植付け時に2枚のネットで球根をはさんで土中に植え込み、掘取り時には、2枚のネットごと掘り上げ、大型のコンテナに球根を収納する方法です（図参照）。

### 2 ネット栽培機械の開発と小型・軽量化に向けた取組み

富山県花卉球根農協と県は、国等補助事業を活用し開発した自走式の球根植込・収穫ロボットを平成28年秋より稼働させましたが、旋回半径が大きいことや、重量が重いことなどから稼働できるほ場が限定される課題が残りました。

このため、ネット栽培機械の（ほ場汎用性を高めるための）小型・軽量化の取組みを（株）キセキ北陸、本県や新潟県・石川県・山口県の試験研究機関とコンソーシアムを組んで、平成29～令和元年にかけて国委託事業を活用してアタッチメント方式による球根植込機（表紙写真参照）や掘取機を開発し、実用化の目処が立ったところです。次年度は開発機を活用した経営実証が行われることになっており、今後、球根の大規模・低コスト生産への貢献が期待されます。

（担い手支援課 園芸振興班）

## 「HACCP の考え方を取り入れた衛生管理」導入支援の取組について

食品の安全を確保するため、事業者による衛生管理の向上などを目的に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が平成 30 年 6 月 13 日に公布されました。原則として、令和 2 年 6 月 13 日からすべての食品等事業者には、一般衛生管理に加え、HACCP に沿った衛生管理の実施が求められていますが、規模や業種等を考慮した一定の営業者については、取り扱う食品の特性等に応じた衛生管理（HACCP の考え方を取り入れた衛生管理）とされています。

このため、農産加工組織においても「HACCP の考え方を取り入れた衛生管理」の導入が必要であることから、これを支援する全体研修会を令和元年 8 月 6 日（火）一般財団法人食品産業センター技術環境部の堀池次長を講師として開催しました。また、品目区分別研修会を令和元年 9 月 3 日（漬物類、菓子類）、令和元年 9 月 17 日（惣菜、飲食店）富山 6 次産業化プランナーである一般財団法人石川県予防医学協会環境検査部の高宮大助氏を講師として、開催しました。

研修会では、HACCP 制度や HACCP の考え方を取り入れた衛生管理やその進め方についての講義に加え、どのように進めていけばよいのかを品目別の手引書をもとに、各参加者が衛生管理計画を作成する演習（写真）を行い、今後の進め方について、理解を深めました。

今後、当センターとしては、農産加工組織の衛生管理計画の作成および実践にむけたフォローアップを図ることとしています。



写真 品目区分別研修会での演習

（担い手支援課 経営支援班）

## ICT を活用した捕獲によるイノシシ被害防止と CSF（豚コレラ）対策

イノシシの CSF（豚コレラ）感染は、岐阜県で平成 30 年 9 月に確認されてから他県へと広範囲に広がっており、富山県でも、本年 7 月、CSF に感染した死亡イノシシが確認されました。この感染の拡大はイノシシの生息頭数が増加し、生息域が広がったことが原因と考えられます。

さらに、こうしたイノシシの生息域の拡大は、農作物被害地域の広域化や、市街化への出没を招いて生活環境の悪化も発生させています。このため、豚コレラの撲滅、農作物被害の低減、生活環境の安全性の確保に向け、これまで以上にイノシシの捕獲強化が必要となっています。

現在、県では、有害捕獲活動のモデル的な取り組みとして①箱わな周辺に設置したセンサーカメラ等を利用した出没状況の確認（写真 1）、②スマートフォン等を活用した箱わなの遠隔操作による捕獲（写真 2）、③これらの出没や捕獲地点に関する情報を関係者間で共有できるクラウドシステムの構築を進めています。

今後、こうした ICT を活用した捕獲技術が確立されて効率的な捕獲活動が可能となることでイノシシの生息頭数の削減を図ることが期待できます。

（企画振興課）



写真 1 箱わなとセンサー

センサーカメラ



写真 2 遠隔操作 スマホ画

## 新規就農者の紹介 ～第16回～ 家敷真浩さん

氷見市の家敷真浩（やしき なおひろ）（40）さんは、令和元年に就農された若い農業者です。実家は、氷見市余川地区で、米を約60a生産する兼業農家で、幼い頃から農作業を手伝ってきました。

就農前は、農業機械の販売及び修理の会社に勤務され、お客さんである氷見の農業者と接するうちに、「自らが、地域の担い手となる農業者になりたい」との強い思いを持たれました。

就農に至るまでに、作業計画や経営計画をよく練り、地元の農協や、勤務先のつながりで知り合った認定農業者からの情報収集を頻繁に行うなどで、信頼を得る努力をされました。その結果、いろいろな方から声をかけていただき、就農1年目から約12haの農地を集積できました。

今年初めて請け負った田んぼが多く、「こんなに、氷見の田んぼが粘質で、深いとは想定外でした。思っていたより、作業に時間がかかり、父・母・妻・息子にも協力してもらって、今年は何とか、一年間を無事に終えることができました。みんなに感謝です。」と、農業の厳しさを実感された反面、自信をもって美味しいお米を生産する喜びを感じておられました。

今後も、農業をとりまく環境は厳しいことが予想されますが、これまで培った機械の整備技術を活かして機械等の投資をできるだけ抑えた経営を行い、氷見の美味しいお米を消費者に届けたいとの抱負を持っておられます。今後の活躍が期待されます。頑張れ～！！

（農業普及課 氷見班）



写真 収穫作業を行う家敷氏

## がんばる女性農業者 ～第9回～

～「(農) 下後<sup>しもごぜ</sup>亟営農組合野菜加工部」(小矢部市)～

(農)下後亟営農組合は平成22年に設立され、水稻26.5ha、野菜1.2ha(さといも、加工用キャベツ、ヤーコンなど)を生産する集落営農法人組織です。組合では女性活躍の場を作るため平成25年に野菜加工部が設けられ、現在10名の女性が同組合で生産するヤーコンを活用した加工品を生産しています。

当初は、ヤーコンの葉を乾燥・粉砕したヤーコン茶だけでしたが、ヤーコンの生産拡大に伴い新たな加工品生産に取り組むこととなり、平成30年に「がんばる女性起業発展支援事業(県単)」を活用し加工施設(写真1)を整備しました。新商品の開発にあたっては、県主催の「スキルアップ講座」の受講に加え、「農村女性起業ネットワーク促進事業」による専門家派遣を活用し、さくさくとした食感が楽しめる「ヤーコンの粕漬」と「ヤーコンの醤油漬」が令和元年に商品化されました(写真2)。

ヤーコンは「小矢部ブランド認定商品」として認定されており、新たな加工品開発によってさらなるヤーコンの消費拡大や小矢部ブランドの知名度向上への貢献が期待されます。



写真1 整備された加工施設



写真2 新たに開発された商品

(担い手支援課 経営支援班)

## HITS が意見発表で全国大会へ！

北陸ブロック農業青年クラブ連絡会が主催する（北陸4県代表による）意見発表会において、本県を代表して青沼 光 氏（氷見射水高岡地区青年農業者協議会（通称HITS）所属）が「酪農のバトン、受ける、作る、繋ぐ」と題して意見発表し、最優秀賞を受賞（写真）されました。

同氏は、①私達にしか、高岡でしかできない酪農経営の夢を第三者継承により実現したこと、②経営する牧場が100年先も続き、酪農業界が100年先も日本になくてはならない産業になってほしいという思いを意見発表し、審査員から第三者継承の成功事例であることや高い志が高く評価されました。同氏は2月26、27日に東京で開催される全国青年農業者会議で北陸ブロック代表として意見発表されます。

同氏の所属する同協議会（氷見市、射水市、高岡市）や「小矢部農業青年協議会」（小矢部市）と一緒に活動したり仲間づくりに取り組む会員（概ね40歳までの農業者や従業員）を常時募集していますのであなたもぜひ参加してみませんか？



写真 受賞した青沼氏とHITSのメンバー

## 農業関係表彰管内受賞者のご紹介

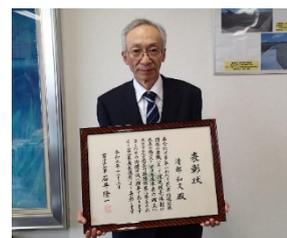
### 1 令和元年度富山県功労表彰(令和元年11月1日)

#### ・清都 和文 氏（高岡市）

長きにわたり富山県花卉球根農業協同組合代表理事組合長等の要職を務められ、低コスト省力体系の確立など精力的に取り組み、本県チューリップ球根の栽培面積や出荷量を日本一の産地に育てるなど球根産業の振興に貢献されました。

#### ・（農）ファーム大島（射水市）

地域貢献を経営理念として農業を開始され、①水稲の団地化による作業効率化、②転作大麦跡の大豆作付による農地利用の高度化、③乾田V溝直播栽培導入による省力化・低コスト化、④えだまめやチューリップ球根などの複合経営で所得向上を実現されました。



清都 和文 氏

### 2 令和元年度とやま地産地消優良活動表彰(令和元年11月6日)

#### とやま地産地消奨励活動賞

#### ・いなかふれさか（氷見市）

県内で初めてブルーベリーを生産され、①摘み取り体験およびジャム等の加工品の製造、②農家カフェの開設とカフェを活用した消費者との交流、③地元小学校等の農業体験を通じた人材育成に取り組まれました。



（農）ファーム大島



いなかふれさか

### 3 令和元年度第68回富山県農村文化賞(令和元年12月5日)

#### ・（農）二上みらい（高岡市）

都市近郊や山麓部の条件不利地で担い手が育ちにくい地域で①協業組織化と後継者の育成、②自己資金での合筆などによる作業効率の向上③投資抑制等による低コスト化の実現に務められました。



（農）二上みらい

受賞された皆様、おめでとうございます。